



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 1月号
平成29年1月10日
横浜市立旭小学校

「わらぐつの中の神様」から

学校長 加藤 和之

平成 29 年の新年を迎えました。今年もよろしくお願いたします。皆さまにとりまして、新しい年が幸多き年になりますよう、お祈り申し上げます。

本校では、「豊かなかわりの中で、自己を生き生きと表現して学び合える子の育成～つながりを感じる言語活動の充実を目指して～」という研究テーマを設定し、「国語」の授業づくりについて研究を進めています。先月、5年生で「わらぐつの中の神様」を題材とした研究授業がありました。この授業は、子どもが物語を読み進めていく中で出てきた、『わらぐつの中の神様』以外の題名をつけるとしたら、どんな題名をつけるか。」という課題で、「読書会」をするという内容でした。子どもたちはグループ毎に自分の「読み」について話し合う「読書会」を進めるのですが、どの子どももしっかりと物語を読み、その上で登場人物の思いや作者の意図について自分なりの考えをもって話し合い、さらに読みを深めていました。まさに子どもたちが「つながる」学びが見られる授業でした。

さて、その「わらぐつの中の神様」に出てくる「おみつさん」は、どうしても欲しい「雪げた」を買うために、朝市で売る野菜の横に並べようと、自分で「わらぐつ」を編みました。なかなか思うように編めなかったのですが、少しくらい格好が悪くても、はく人がはきやすいように、あったかいように、少しでも長持ちするようと、心をこめて、しっかりしっかり、わらを編んでいきました。なかなか売れなかったのですが、ある若い大工さんがそれを何度も買ってくれます。そして、その大工さんは「おみつさん」にこう言います。

「おれは、わらぐつをこさえたことはないけども、おれだって職人だから、仕事のよしあしは分かるつもりだ。いい仕事ってのは、見かけで決まるもんじゃない。使う人の身になって、使いやすく、じょうぶで長もちするように作るのが、本当のいい仕事ってもんだ。」

大工さんは「ものづくり」について言っているのですが、私はこのことと、学校のあり方、私たち教職員のあり方と重ねて考えてみました。そうすると、「使う人の身になって」＝「子ども一人ひとりに寄り添って」、「じょうぶで長持ちするように」＝「子どもの将来に生きるように」というように重なり合うのです。そして何よりも「心をこめて」教育活動に取り組み、日々の指導を「しっかりしっかり」と「わらを編みように」、そして大工さんが言うように「見かけ」にこだわることのないように、一步一步着実に積み重ねていくことが大切だと思うのです。

時代の流れに乗り、様々なことがもの凄い速さで変化しています。しかし時代が変わろうとも、私たちが大切にしなければならぬことは変わりません。子ども一人ひとりを大切に、子どもの将来のために、心をこめて日々の指導にあたること……。年頭にあたり、改めて考え直すことができた「わらぐつの中の神様」でした。

作者の杉みき子さんは、新潟県の高田（現在の上越市）の出身です。上越市は6年生が「宿泊体験修学旅行」で行く「妙高市」の隣町です。これからさらに雪深くなるであろう新潟の冬の情景と、そこで暮らす人々の温かさを思い浮かべる今日この頃です。

1月の取組目標



生活目標	礼儀正しくしよう
保健目標	姿勢を正しくしよう
清掃目標	整理整頓をして気持ちよい教室にしよう
給食目標	感謝の気持ちをもって食事をしよう